

共同研究事例Ⅶ

研究者
スナイプバレー合同会社

研究期間
令和5(2023)年度～
令和7(2025)年度

●背景・課題

海環境は、海洋プラスチックごみや温暖化などの影響を受け、大きく変化していますが、海の中という環境であるがゆえに、その実態が広く市民に知られていないのが現状です。

●研究内容

東扇島人工海浜及び周辺の海域にて、潜水での海洋プラスチックごみの実態把握や海洋温暖化による影響の調査等を実施し、環境イベントや出前講座を通じて、広くその結果を発信します。

●得られる効果、成果、展望

身近な海の魅力を伝えていくと共に市民に対して行動変容を促していきます。

実証フィールド

東扇島東公園

連携型共同研究事業

自然共生型社会の構築

循環型社会の構築

脱炭素社会の構築

東扇島東公園周辺海域における生物相の調査及び海洋プラスチックごみや温暖化などの影響に関する調査

研究概要図

① 海中での生物相調査

調査範囲における季節ごとの生物相の変化や、生物の生息域の変化などの調査

② 海中での藻場調査

藻場造成／再生（ブルーカーボン）に向けての調査・実験

③ 海中・砂浜での海洋ごみ調査

調査範囲におけるごみの種類や量、マイクロプラスチックの分量の調査

